

行事報告

ザ・シンポジウムみなと in 稚内

「ザ・シンポジウムみなと」実行委員会

「ザ・シンポジウムみなと」は、地域の発展の核となる港湾について、様々な立場から見た北海道港湾の将来の方向に関する意見を紹介していただき、道民の方々に港湾の重要性や必要性を理解してもらうとともに、広く港湾をPRすることを目的としてこれまで道内主要港湾所在地において開催してきました。平成27年度の「ザ・シンポジウムみなと」は、「みなとが繋ぐ島々との夢海道～稚内港を拠点とした観光振興について考える～」をテーマに「ザ・シンポジウムみなと in 稚内」を11月4日(水)、ANA クラウンプラザホテル稚内において、全道各地から約200名の方々が参加し開催されました。

はじめに、主催者として「ザ・シンポジウムみなと実行委員会」の水野委員長からご挨拶がありました。基調講演はNPO 法人離島経済新聞社 統括編集長 鯨本あつこ氏から、『島の光を観に行こう～離島地域の観光振興～』と題して、ご講演いただきました。離島の観光には壁はあるものの、観光客の多い島、忘れられない島旅など、全国各地の離島観光の取組をご紹介します。

引き続き、『インバウンド新時代に向けた課題と戦略的取組について』というテーマで、コーディネーターの稚内北星学園大学 情報メディア学部 講師 藤崎達也氏、パネリストのNPO 法人離島経済新聞社 統括編集長 鯨本あつこ氏、まるぜん観光株式会社 代表取締役 渡辺敏哉氏、株式会社 JTB 北海道 MICE・ソリューション営業課 伊藤誠氏、北海道開発局 稚内開発建設部 部長 小松正明氏による、パネルディスカッションが行われ、利尻・礼文の魅力、離島観光の課題、今後の取組として情報発信等での広域連携及び人材育成が必要であること等のご発言をいただき、シンポジウムが終了いたしました。

なお、「基調講演」及び「パネルディスカッション」の詳細につきましては、後日、当ホームページ及び「海と港」第34号に掲載いたします。

